

栃木県総合教育センターだより

学びの杜通信 臨時号

令和4(2022)年1月27日発行



冬休みが明け約3週間が経ちました。新型コロナウイルスの感染者が急激に増加し、先の見通せない状況が続く中、子どもたちの不安やストレスも増大していると考えられます。中には、困りごとを抱えたまま誰にも言えない子どももいるかもしれません。小さな困りごとでも自分から「困っている」と言えるようにするために必要なことを、改めて見直してみましょう。

子どもが「困っている」と言えるようにするために

にこやかな表情や落ち着いた言動を心掛ける

- ・子どもと目が合ったときに、ほほえむ
- ・廊下などで子どもとすれ違うときにはゆっくり歩く

伝えたいメッセージ→ **いつでも話しかけて大丈夫だよ**



一人一人の子どもに目を向け、言葉をかける

- ・一人一人の表情からその思いを考える
- ・呼名をするとき、一言添える

伝えたいメッセージ→ **あなたのことを大切にしているよ**

周りの人の力を借りる大切さを示す

- ・どんなに小さなことでも話してよいと伝える
- ・困ったときに子どもたちに頼る姿を見せる

伝えたいメッセージ→ **一人で抱え込まないでね**



子どもは、「この先生なら、きっと受け止めてもらえる」と思えると、安心して、困っていることについて相談しようという気持ちを持てるようになっていきます。

* 総合教育センターでは、子どもや保護者、先生方からの相談を受け付けています。学校や家庭で気になる様子などがみられましたら、どうぞ御利用ください。【問合せ先】教育相談部(Tel. 028-665-7211)